

1998年、北海道オープンの本戦に出場した彼はこう言った。

『I'LL BE BACK』(ターミネーター風)

## だてスポ ～北海道オープン編～

DATEの予選トーナメントで本命と対抗の選手がデフォとなり、DATEの予選突破の可能性が高まった。初戦を中川さん(ルネサンス札幌平岸)に快勝したDATE。テポドン発射4発。続く2回戦が最大の山場。相手は仙台の雄、エンタクさん(仙台)。過去の対戦成績は2勝1敗、しかしいずれもファイナルタイブレークであり、どちらに結果がなるのか、全くわからない相手であった…

### 1セット目

エンタクさんからの仕掛けをひたすら我慢するというDATEらしくないラリーが続く…中盤、5-5あたりで、エンタクさんがショートボーストを放つ。

『来た!!!!!!』

ショートボーストに対し、今までのDATEだったら、ロブでかわしていたが、この日はフェイク気味のストレートがきれいに決まり、リード。その後もDATEらしからぬ我慢のラリーで1セット目を取る。

### 2ゲーム目

#### 1-1となった3ゲーム目

1ゲーム目同様、地道にストレートクロスを打ち続け、相手のミスを誘う戦術。ここで、エンタクさんのバックの奥からロングクロスドロップ(だて名:テポドン)が飛んできた。

『来た～～(織田裕二風。やや古)』

いつもならロブでしのぐところを、この日の為に練習してきた、『ドロップと見せかけてからの～』ちょっとだけ短いストレートが決まったのである。その後、3点リードを保ち有利に進めるが、アングルもテポドンも不発であり、我慢のラリーが続く。そして、マッチボールを迎えたが、サーブ権を奪われてしまった。

10-8で迎えたエンタクさんのサーブで、DATEは、学生時代に良く使っていた『あえて浮かしアングルリターン』をチョイス。エンタクさんのショットをショートボーストに限定し、山をはったが、ここでまさかのエンタクさんのストレートがストロークとなり勝利。DATEの徹底した分析による勝利といえよう。

本人曰く、泣きそうだったが、北海道では涙は見せれないとのことであった…

### 翌日予選決勝

相手は北大OBの佐藤孝哉くん。戦前の下馬評ではDATE有利だったが、疲れからかミスが目立ち、7-10とまさかのリードを許してしまった。しかし、ここから我慢のラリーに切り替え、タイブレークで1ゲーム目を取ると、2ゲーム目はあらゆる技が炸裂し、

快勝。そして、予選終了後、衝撃が起きたのである。『天下統一』

予選を突破した北海道の男はDATEただ一人となり、この時点で、悲願であった北海道スカッシュ界の天下統一が達成された。野田総理とどちらが長いのか興味深い。

### 3ゲーム目

瀕死のDATEの前に、チャンスボールがきたのである。そう、『落雷ニック』

先月の茨城県で発生した竜巻よりも威力のあるショットが炸裂。しかしDATEの快進撃もここまで。二度と雷雨になることはなかった…

DATEのヒストリーはここで幕を閉じたのであった。オウム真理教の高橋克也が逮捕された今、世の中の関心事は『落雷ニックは何故発生するのか?』ではなからうか?(くだらない)

# 北海道オープン編 だてスポ

2012年6月17日発行

## 読者プレゼントクイズ

今回14年振りに北海道オープンの本戦に出場したDATEですが、彼は今後なんて呼ばれたいのでしょうか?

- ①あ、本戦選手のDATEさん。おはようございます。
- ②あれ?北海道オープンで本戦にいったのって誰でしたっけ?
- ③結局褒めればなんでもOK

これは超難問。  
あたった方には、サプライズなものが当たる可能性あり。